

もう一度 鳥インフルエンザ 院長

先月号にも簡単に書きましたが、鳥インフルエンザが大きな問題になっています。この問題について、もう少し考えてみましょう。

今回の鳥インフルエンザの始まりは1月12日に山口県の養鶏所で、国内では1925年以来79年ぶりの発生ということで大きな話題となりました。その後、大分県では飼育していたチャボからも検出され、2月29日には京都の養鶏場でも発生が確認されました。

鳥類が感染するインフルエンザは「鳥インフルエンザ」と呼ばれ、このうち死亡するようなものを「高病原性鳥インフルエンザ」と呼びます。すべての鳥が感染するものではなく、鶏、アヒル等が感染すると全身症状をおこし死亡する病気です。伝染性が強く、一つの養鶏場が全滅ということも希ではありません。このウイルスは、A型インフルエンザウイルスの中に含まれますが、人のインフルエンザウイルスとは異なります。今回のウイルスはH5N1と確認され、日本での発生の前には中国や韓国、東南アジアで流行していたものと同じです。日本への伝播の経路は明らかではありませんが、渡り鳥によって運ばれると考えられています。

従来は人に感染しないと考えられていましたが、1997年と2003年に香港で鳥インフルエンザの感染が確認され死亡者が出ています。人から人への感染はなく、その後の感染の拡大はありませんでした。しかし、今年になってベトナムやタイで人への感染が見られ、人から人への感染も明らかになっています。一般的には、鳥と濃厚な接触（近距離での接触や内蔵や排泄物への接触）が無ければ、伝染しないと考えられています。現在のところ、日本での人への感染はありません。

鳥の死亡率が高いという点が、一つの問題です。近隣への感染の拡大、鶏肉や卵の供給だけでなく経済への大きな影響も懸念されます。また、人への感染も大きな問題です。人に感染した場合は高い死亡率の病気です。もう一つ

の医学的な問題は、新型インフルエンザの発生です。鳥インフルエンザウイルスと人のウイルスが、豚などの宿主に同時に存在すると、遺伝子に組み換えが起こり人への伝染性が強い新型のインフルエンザウイルスが生まれる可能性があります。また人に両ウイルスが同時に感染すると、これも同じように新型ウイルスが出現する可能性があります。この新型ウイルスが出現して流行すると、SARSなどには比べられないほどの大きな被害が出ると考えられています。新型ウイルスに対する免疫を持たないため、日本で流行した場合には3~4万人の犠牲者が出ると予想されています。このような大きな問題を引き起こす可能性があるため、徹底した対策が必要になるのです。

ペットとして飼っている鳥類のことも心配になりますが、鳥インフルエンザが出現したからと言って直ちに危険になるものではありません。触れた後の手洗いや排泄物の始末など、動物を飼う場合の基本はしっかり守ることが大切です。もう一つ心配なことは、鶏肉や卵から感染するかということでしょう。食品として販売されている鶏肉などを食べて感染することはないとされています。また我が国では、法定伝染病として位置づけられており、発生した場合は拡大を防ぐためにまん延防止措置が実施されることとなります。したがって、感染鳥やその卵が食品として市場に出回ることは無いはずで、ウイルスは適切な加熱により死滅するとされており、WHOでは食品の中心温度を70℃に達するよう加熱することを推奨しています。

症状は人のインフルエンザと同様で、死亡の原因は肺炎とされています。インフルエンザワクチンで予防は不可能ですが、現在使われている抗インフルエンザ薬が有効とされています。診断も現在使われているインフルエンザの迅速検査で可能ですが、鳥かかかのウイルスの区別はできません。

山口県での最初の発生の場合は、比較的迅速な対応により周囲への感染を食い止めることができました。しかし、京都府丹波町の「浅田農産船井農場」では、発生を隠ぺい(?)しただけでなく、その後鶏や鶏卵出荷まで行っていたという事実が明らかになりました。これは目先の問題だけを考えた対応で、隠してしまえばわからないという、自己保身的で許されるものではありません。それぞれの仕事には、国民に対して責任があります。我々小児科医は医療という責任を担っています。この会社でも国民の食に対する安全という責任を担っていたはずで、それぞれの立場における責任というものを、もう一度しっかり考えたいものです。

3月のお知らせ

・栄養育児相談

毎週水曜日 13:30~

栄養士担当 参加無料



読者の広場

先月は、ちょっと少なめですが19通のメールを頂きました。まずは宮城野区の前田さんからのメールを紹介します。「川村先生、看護師の皆様、受付の皆様、いつもお世話になっております。前田楓果の母です。院内でクリニックニュースを見るたびに、早く私も先生にお礼を伝えなくてはと思っていたのですが、こんな形になってしまい申し訳ございません。娘が保育園に通うようになってからというもの、嘔吐下痢症やインフルエンザで毎週のように川村先生の元へ駆け込んでいますが、丁寧な説明と対応に親の私の方がホッとさせられています。川村先生の所に通う前は、家の近くを中心いくつかの小児科や耳鼻咽喉科を転々としていました。正直、納得して帰ってきた事がなく、質問できる雰囲気でもないので悶々としたものがありました。そこで、看護師の友人（現在は千葉に在住）に「いい小児科知らない？」と何気なく聞いたところ、「かわむらこどもクリニックというところはいいらしいね。」と紹介されたのがきっかけで通院し始め、今ではすっかりお世話になりっぱなし・・・というわけです。待っている時間に看護師さんが真剣に細かく症状を聞いてくださること、娘の名前で呼んでくださること、先生の説明がわかりやすく、質問に丁寧に応じてくださること・・・とすべてがありがたく、最初に通院した時は驚きの連続でした。娘は内弁慶で、看護師さん方の一生懸命な話し掛けにも反応が悪く（親の方がいつもハラハラです・・・）、ご迷惑おかけしておりますが、それでも笑顔で対応してくださるのには本当に頭が下がります。これからもお世話になることが多いと思いますが、改めてよろしく願い致します」。頂いたメールは、スタッフ全員に転送して読んでもらっています。このようなお褒めの言葉は、我々クリニック全体のモチベーションを高めてくれます。自己満足ではなく、患者さんからの評価が本当に大切だと思っています。ありがとうございました。



2004年度『お母さんクラブ』会員募集中

今月は少しスペースが余りましたので、『お母さんクラブ』についての紹介です。『お母さんクラブ』は医学知識の習得と啓蒙、クリニックとお母さん及びお母さん同士のコミュニケーションを目的にしています。福沢市民センターで木曜日の午後（14：00）、年8～9回開催しています。医学的課題としては、インフルエンザ、救急蘇生、こどもの病気と対処法など。社会的な課題としては、悪徳商法、チャイルドシートなど。リレーションとしては、クリスマス会などを開催しています。院長やスタッフが、お母さんたちと同じ立場で、語り合うことが目的です。「医学の知識を得たい」、「育児の悩みを聞いてもらいたい」、「転職したばかりで、お友達が欲しい」、「子どものあそび相手が欲しい」、「もっと先生の話を知りたい」等、こんな思いを持っていませんか。どなたでも、参加できます。4月から参加される新しい会員を募集中です。興味のある方は、受付までどうぞ。

ラジオ番組終了のお知らせ

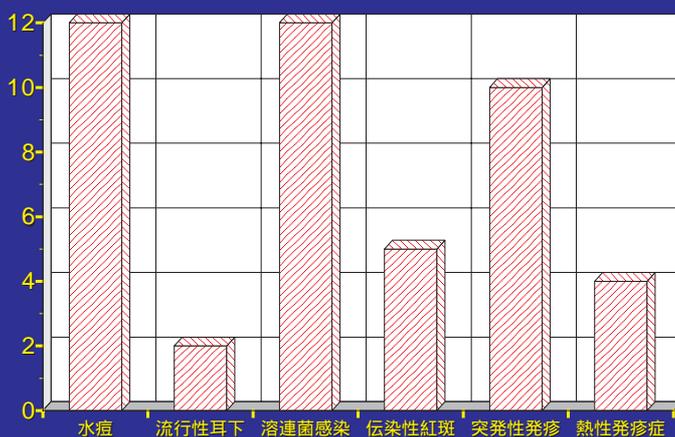
昨年4月から東北放送ラジオ「ボリュームワイド」のくらしのめあてを第一木曜日に担当していました。しかし今回、番組編成の変更に伴い、「ボリュームワイド」が終了します。よって院長の担当も、今回が最後になります。最終回は、3月4日（木）13：20からです。お聞き逃しなく。1年間、ありがとうございました。お聞きになった皆さんの感想を、是非聞きたいものです。4月からの番組の打診が来ていますが、まだ確実なものではありません。またいつか、放送でお会いできることを、楽しみにしててください。

雑誌掲載のお知らせ

ひよこクラブ 3月号（2月15日発売） 「ドクターの説明解決ファイル」

小児科を受診したとき、ドクターがママたちへの説明でよく使われる言葉のもつ意味をわかりやすく解説していくのがねらいです。具体的には「2、3日安静に」という場合の「安静」とはどんなふうに過ごせばいいのか、「しばらく様子を見ましょう」の「しばらく」とはどのくらいか、などママたちが実際にどんな状況で言われたかを踏まえてその言葉が含む意味を考えてみます。結構ページ数は多くなります。乞う、御期待！！

2月の感染症の集計



グラフには示していませんでしたが、先月中旬ぐらいまではインフルエンザが流行していました。しかしその後ぱたっと流行しなくなりました。全国的にも同じような傾向です。水痘と溶連菌感染症が多く、特に溶連菌感染症は増加傾向です。ロタウイルスによる嘔吐下痢症、アデノウイルスによる高熱の出る感染症など、様々な病気が流行し、比較的混雑した一月でした。

編集後記

今年はインフルエンザ大流行と言われていましたが、思ったより流行はしていません。インフルエンザが流行すると他の病気が見られなくなりますが、今年はいろいろな病気が出ています。それに加えて、BSEや鳥インフルエンザなど何かと心配です。

